

Satoyama Project

～株式会社T - marksの取り組み～

株式会社T - marksは、富山県氷見市のなだらかな丘に広がるぶどう農園で、ワイン用のぶどう等を栽培しており、将来的には自社ワイナリーでのワイン・ピネガー醸造や農業・里山体験等の各種プログラムの提供等を予定しています。



釣代表取締役とワイン用ブドウ

株式会社T - marksの概要

設立	平成19年
資本金	500万円
従業員	3人
事業内容	ワイン製造・販売
農地面積	5.3ha
作付作物	ぶどう(ワイン加工用、生食用)、西洋なし、ブルーベリー

参入を決めるにいたる経緯

(株)T-marksの親会社である(株)釣屋魚問屋は氷見漁港で魚の卸を営んでいる。釣屋魚問屋では、今後の多角的な事業展開を図るための柱となる事業を検討している中、新潟県内に観光ワイナリーがあることを知った。生産から加工・販売までの6次産業に興味を持っていたこと及び、氷見ブランド(魚)の活用等から、新たな事業展開を観光ワイナリーとし、(株)T-marksを設立の上、特定法人貸付事業により農業に参入することになった。



富山湾を一望できる高台にあるぶどう園

参入を決めてから営農を開始するまで

農業参入に先立ち、社員1名を1年間、研修生として新潟県内の観光ワイナリーに派遣し、ワイン用ブドウの生産から加工・販売までの研修を受けた。

農地については、氷見市に一団の農地を複数箇所あっせんしてもらい、交通アクセス、景観、農業用用水の整備状況等から、当該地(余川地区)を選定した。

当初借入農地(3.8ha)はすべて耕作放棄地で、茅や熊笹等が2m以上生い茂っていたため、親会社の協力を得て、除草作業を実施した。また、土壌改良(暗きょ整備、蛎殻の投入)については、資材及び重機を購入し、親会社の重機作業経験者の協力を得て自社で実施した。ワイン用のぶどうは痩せた農地でも生産は可能だが、当該地は、過去に牧草が栽培され、その際の転圧等により硬い土質となっていたことから、ぶどう栽培に適した土壌作りに苦労した。

営農技術については、氷見市周辺でワイン用ぶどうの生産をしている農家等がないことから、新潟県及び長野県の栽培農家の営農指導を受けている。また、富山県高岡振興センターの普及担当が能登ワイナリーと連携を図り、熱心に営農指導を行っている。



生食用のぶどう

営農開始から現在まで

現在、借入農地は5.3haまで拡大し、ワイン用ぶどう(4ha)、生食用ぶどう(30a)、西洋なし(70a)、ブルーベリー(30a)を作付けしている。定植からまだ、間がないことから、本格的な収穫は、来年以降を予定している。なお、今年度の借入農地1.8haについては、国の「企業等農業参入支援推進事業」を活用し、農地の簡易基盤整備を実施している。

今後の農業経営の展開方向

当該地(余川地区)は、13haの一団の農地となっており、将来的に全ての農地の借入を予定している。

来年以降、ワイナリー、農園カフェ、レストランを整備し、親会社の魚と自社ワイン、農産物の提供や、各種農業体験等のプログラムも検討している。

また、来年以降、イチジク、桃及びレストランで使用する野菜の生産も予定している。



斜面に展開するぶどう棚

記載内容は平成21年8月時点の聞き取りによる